



「台湾 (チャイニーズタイペイ) 静岡キャンプ」報告

静岡県バドミントン協会
理事長 杉山 敏充

台湾バドミントン代表選手による 静岡キャンプが、昨年の11月29日(日)から12月9日(木)までの12日間、静岡市「このはなアリーナ」及び「静岡中央体育館」を会場に行われました。

この台湾キャンプは政府の推進する「ホストシティ・タウン構想」に基づき実施されたもので2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けてオリパラ参加国と全国の自治体が人的・経済的・文化的な総合交流を図ることにより地域の活性化、観光振興等に資する観点から政府全体がスポーツ立国・グローバル化の推進を目指す本格的な取り組みである。

27年度は静岡県としてレスリング、ライフル射撃、アーチェリーなどの競技も先行してキャンプの受け入れに着手しているが中でもバドミントンは総勢50名を超える選手・競技役員を迎え12日間という長丁場の静岡滞在ということでそのキャンプ規模からしても県全体の期待を担う重要な位置付けとなるキャンプとなった。

さらに、このキャンプでは台湾代表選手に加えて日本代表選手(ナショナルメンバー12名(男6・女6))・コーチ(2名)、東海地区実業団(ジャトコ、トリッキーパンダース)、静岡高校選抜、東海地区高校生・ジュニアナショナル、県外高校生も多数参加し台湾チームとの強化練習及び実戦を交えた交流大会を行うなどトップアスリートによるハイレベルなキャンプとなった。

この他、キャンプ地である静岡市がトップアスリートによるジュニア選手の育成機会の創出とスポーツ交流の活性化を図ることを目的に台湾選手による静岡市内中学12校バドミントン部員120名を対象にバドミントン教室を開催するなど台湾と静岡市における文化・教育的交流に相応しい成果を齎した。

こうしてこの12日間の台湾キャンプは一切の事故もなく全てが日程通り無事に終了をしたのであるが、一方ではこの12日間のキャンプ日程中「ホストシティ・タウン構想」における様々な課題も浮上するなど今後この事業の推進に当たっては一段の検証と準備が重要であると認識を新たにするものであります。以上、大変雑駁な報告ではありますがこのキャンプを通じてご支援ご協力を賜りました関係の皆様には衷心より深く御礼を申し上げます。



コートマット撤去を行う科学技術高校の生徒達



このはなアリーナを一齐にモップ掛け



県大学連学生、科学技術高校生、静岡英和女学院中学校生、バドミントン愛好者の皆様の応援により困難が予想されていたコートマットの設置も敏速に行われました。ありがとうございました。

～ご協力頂きました団体～

静岡大学	東海大学	SBSクラブ
静岡大学浜松	静岡県立大	CLUBコスモス
常葉大学静岡	浜松医科大学	※順不同
常葉大学富士	科学技術高校	
常葉大学浜松	静岡英和女学院中学校	

打! 跑! 跳! 加油!
中華民國 羽毛球 代表隊
静岡市熱烈歓迎 中華民國代表隊 並為代表隊助威



杉山理事長・石川会長・台湾監督



このはなアリーナ合宿初日 会長挨拶



日本代表の選手とコーチ



合同練習会(日本・台湾ナショナル・チーム)



練習会試合(男子シングルス)



静岡市の中学生と市民交流会 中央体育館



差し入れの富士宮焼きそばに舌鼓の台湾代表の皆さん



台湾バドミントン代表 選手・コーチ・役員



歓迎レセプションの様子

日本バドミントン協会 山田事業本部長とナショナルメンバー

